

## 参考文献

- 阿部純一・桃内佳雄・金子康朗・李光五(1994)『人間の言語情報処理——言語理解の認知科学』サイエンス社
- 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門——ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク
- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学——言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店
- \_\_\_\_\_ (2003,04)「言語における〈主観性〉と〈主観性〉の言語的指標」(1)(2)『認知言語学論考』3・4, ひつじ書房
- \_\_\_\_\_ (2011)「日本語と主観性・主体性」、澤田春美(編)『ひつじ意味論講座5 主観性と主体性』ひつじ書房
- 池上嘉彦・守屋三千代(編)(2009)『自然な日本語を教えるために——認知言語学をふまえて』ひつじ書房
- 石黒圭(2008)『日本語の文章理解過程における予測の型と機能』ひつじ書房
- 伊豆原英子(1994)「感動詞・間投助詞・終助詞「ね・ねえ」のイントネーション——談話進行との関わりから」『日本語教育』83, pp. 96–107, 日本語教育学会
- 井出祥子(2006)『わかまえの語用論』大修館書店
- 市川孝(1978)『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 市川保子(編著)(2010)『日本語誤用辞典——外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク
- 伊藤たかね・杉岡洋子(2002)『語の仕組みと語形成』原口庄輔・中島平三・中村捷・河上誓作(編)英語学モノグラフシリーズ16, 研究社
- 井上和子(1976)『変形文法と日本語(上)』大修館書店
- 井上史雄(1999)『敬語はこわくない』講談社現代新書
- ウェイリー, リンゼイ, J. (2006) 大堀壽夫、古賀裕章、山泉実訳『言語類型論入門——言語の普遍性と多様性』岩波書店
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究——主観性をめぐって』南雲堂
- 大鹿薫久(2004)「モダリティを文法史的に見る」北原保雄(監修)、尾上圭介(編)『朝倉日本語講座6 文法II』pp. 193–214, 朝倉書店
- 大堀壽夫(2002)『認知言語学』東京大学出版会
- \_\_\_\_\_ (2004)「文法化の広がり」と問題点』『月刊言語』33(4), pp. 26–33, 大修館書店

- 奥田靖雄 (1985) 「文のさまざま (1) 文のこと」『教育国語』80, pp. 41–49, むぎ書房
- \_\_\_\_\_ (1985) 『ことばの研究・序説』 むぎ書房
- 小野晋・中川裕志 (1997) 「階層的記憶モデルによる終助詞「よ」「ね」「な」「ぞ」「ぜ」の意味論」『認知科学』4 (2), pp. 39–57, 日本認知科学会
- 尾上圭介・坪井栄治郎 (1997) 「国語学と認知言語学の対話 II」『月刊言語』26 (13), pp. 70–86, 大修館書店 (尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』 pp. 453–471, くろしお出版に再録)
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
- \_\_\_\_\_ (1996) 『動詞意味論——言語と認知の接点』 日英語対照研究シリーズ (5), くろしお出版
- 影山太郎 (編) (2001) 『日英対照 動詞の意味と構文』 大修館書店
- 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健 (2004) 『言語学第2版』 東京大学出版会
- 片桐恭弘 (1997) 「終助詞とイントネーション」 音声文法研究会 (編) 『文法と音声』 pp. 235–256, くろしお出版
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論——言語の機能的分析』 大修館書店
- 亀山恵 (1999) 「談話分析: 整合性と結束性」『岩波講座言語の科学7 談話と文脈』 岩波書店
- 菊田千春 (2009) 「文法化としてのトコロ関係節の成立——主要部内在型関係節との比較からみえるもの」『同志社大学英語英文学研究』84, pp. 71–106
- 菊地康人 (1989) 「待遇表現——敬語を中心に」『講座日本語と日本語教育1』 明治書院
- \_\_\_\_\_ (2010) 『敬語再入門』 講談社学術文庫
- 木村英樹・森山卓郎 (1992) 「聞き手情報配慮と文末形式」大河内康憲 (編) 『日本語と中国語の対照研究論文集 (下)』 pp. 3–43, くろしお出版
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』15 (金田一編 1976 に再録)
- 金田一春彦 (編) (1976) 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房
- 工藤真由美 (1985) 「ノ、コトの使い分けと動詞の種類」『国文学 解釈と鑑賞』50 (3), pp. 45–52
- 久野暲 (1973) 『日本文法研究』 大修館書店
- \_\_\_\_\_ (1978) 『談話の文法』 大修館書店
- \_\_\_\_\_ (1983) 『新日本文法研究』 大修館書店
- 窪田富男 (1990, 92) 『敬語教育の基本問題 (上・下)』 国立国語研究所編、日本語教育指導参考書 17, 18
- 黒滝真理子 (2005) 『Deontic から Epistemic への普遍性と相対性——モダリティの日英対照研究』 くろしお出版
- 黒田成幸・中村捷 (編) (1999) 『ことばの核と周縁——日本語と英語の間』 くろしお出版
- 甲田直美 (2001) 『談話・テキストの展開のメカニズム——接続表現と談話標識の認知的考察』 風間書房
- 小金丸春美 (1990) 「ムードの「のだ」とスコープの「のだ」」『日本語学』9 (3), pp. 72–82, 明治書院

- 小柳かおる (2004) 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 スリーエーネットワーク
- 小山哲春 (1997) 「文末詞と文末イントネーション」 音声文法研究会 (編) 『文法と音声』 pp. 97-119, くろしお出版
- 近藤安月子 (2002) 「会話に現れる「ノダ」——「談話連結語」の視点から」 上田博人 (編) シリーズ言語科学 5 『日本語学と言語教育』 pp. 225-248, 東京大学出版会
- \_\_\_\_\_ (2008a) 『日本語学入門』 研究社
- \_\_\_\_\_ (2008b) 「共同注意と日本語教育——発話末のノを中心に」 北京大学日本語言文化系・北京大学日本文化研究所 (編) 『日本語言文化研究』 8, pp. 154-162
- \_\_\_\_\_ (2011) 「「します」と「するんです」」 東京大学言語情報科学専攻 (編) 『言語科学の世界へ——ことばの不思議を体験する 45 題』 pp. 2-15, 東京大学出版会
- 近藤安月子・姫野伴子 (編著) (2012) 『日本語文法の論点 43』 研究社
- 近藤安月子・姫野伴子・足立さゆり (2013) 「韓国語母語日本語学習者の事態把握——中上級・上級学習者の場合」 『日本語学研究』 36, pp. 81-99, 韓国日本語学会
- \_\_\_\_\_ (2014) 「韓国語母語日本語学習者の事態把握——日韓対照言語調査の結果から」 『日本認知言語学会論文集』 14, pp. 373-382
- 近藤安月子・池上嘉彦・姫野伴子・足立さゆり・王安 (2010) 「中国語母語日本語学習者の事態把握——日本語主専攻学習者を対象とする調査の結果から」 『日本認知言語学会論文集』 10, pp. 690-709
- 近藤安月子・丸山千歌 (編著) (2001/ 2008) 『日本への招待 (第二版)』 東京大学出版会
- \_\_\_\_\_ (2005) 『文化へのまなざし』 東京大学出版会
- 坂原茂 (1985) 『認知科学選書 2 日常言語の推論』 東京大学出版会
- 佐久間鼎 (1936, 66) 『現代日本語の表現と語法』 増補版、恒星社厚生閣
- 佐久間まゆみ (1989) 「文章の統括と要約文の構造特性」 佐久間まゆみ (編) 『文章構造と要約文の諸相』 pp. 184-228, くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1992) 「文章と文——段の文脈の統括」 『日本語学』 11 (4), pp. 41-48, 明治書院
- 佐久間まゆみ (編) (1994) 『要約文の表現類型』 ひつじ書房
- 佐治圭三 (1957) 「終助詞の機能」 『国語国文』 26 (7), pp. 23-31 (佐治 1991 に再録)
- \_\_\_\_\_ (1991) 『日本語の文法の研究』 ひつじ書房
- 定延利之 (2003) 「現代語の限定のとりたて」 沼田・野田編 (2003), pp. 145-158
- \_\_\_\_\_ (2008) 『煩惱の文法』 ちくま新書
- 澤田美恵子 (2007) 『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』 くろしお出版
- 柴谷方良 (1978) 『日本語の分析——生成文法の方法』 大修館書店
- \_\_\_\_\_ (1982) 「ヴォイス——日本語・英語」 寺村秀夫他 (編) 『講座 日本語学 10』 「外国語との対照 1」 pp. 256-279, 明治書院
- 須賀一好・早津恵美子 (編) (1995) 『動詞の自他』 ひつじ書房
- 杉藤美代子 (2001) 「終助詞「ね」の意味・機能とイントネーション」 音声文法研究会 (編) 『文法と音声 III』 pp. 3-16, くろしお出版
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房

- 高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ——現代日本語における記述的研究』 くろしお出版
- 高橋圭子 (2016) 『自然な敬語が基本から身につく本』 研究社
- 高橋太郎・金子尚一・金田章宏・齋美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰文 (2005) 『日本語の文法』 ひつじ書房
- 高見健一・久野暉 (2014) 『日本語構文の意味と機能を探る』 くろしお出版
- 滝浦真人 (2005) 『日本語の敬語論——ポライトネス理論からの再検討』 大修館書店
- \_\_\_\_\_ (2008) 『ポライトネス入門』 研究社
- 田窪行則・金水敏 (1996) 「対話と共有知識——談話管理理論の立場から」 『言語』 25 (1), pp. 30–39, 大修館書店
- \_\_\_\_\_ (2000) 「複数の心的領域による談話管理」 坂原茂 (編) 『認知言語学の発展』 pp. 251–280, ひつじ書房
- 田野村忠温 (1990) 『現代日本語の文法 I 「のだ」の意味と用法』 和泉書院
- \_\_\_\_\_ (2004) 「現代語のモダリティ」 北原保雄 (監修)、尾上圭介 (編) 『朝倉日本語講座 6 文法 II』 pp. 215–234, 朝倉書店
- 陳常好 (1987) 「終助詞——話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞」 『日本語学』 6 (10), pp. 93–109, 明治書院
- つくば言語文化フォーラム編 (1995) 『「も」の言語学』 ひつじ書房
- 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語——言語類型論から見た日本語』 (改訂版 2009) くろしお出版
- 角田太作・佐々木冠・塩谷亨 (編) (2007) 『他動性の通言語的研究』 くろしお出版
- 角田三枝 (2004) 『日本語の節・文の接続とモダリティ』 くろしお出版
- 坪本篤朗 (2003) 「再び、主要部内在型関係節構文——「分離」と「統合」の間」 『ことばと文化』 6, pp. 27–44, 静岡県立大学英米文化研究室
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1984) 『日本語のシンタクスと意味 II』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1991) 『日本語のシンタクスと意味 III』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1993) 『寺村秀夫論文集 I』 くろしお出版
- 東京大学言語情報科学専攻 (編) (2011) 『言語科学の世界へ——ことばの不思議を体験する 45 題』 東京大学出版会
- 時枝誠記 (1950) 『日本文法 口語篇』 岩波書店
- 中右実 (1979) 「モダリティと命題」 林栄一還暦記念論文集編集委員会 (編) 『英語と日本語と』 pp. 223–250, くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1999) 「モダリティをどう捉えるか」 『月刊言語』 28 (6), pp. 26–33, 大修館書店
- 中澤恒子 (2011) 「「行く」時、「来る」時: 直示表現の視点」 東京大学言語情報科学専攻 (編) (2011) 『言語科学の世界へ ことばの不思議を体験する 45 題』 pp. 33–44, 東京大学出版会
- 永野賢 (1986) 『文章論総説——文法論的考察』 朝倉書店
- 名嶋義直 (2007) 『ノダの意味・機能——関連性理論の観点から』 くろしお出版

- 仁田義雄 (1989) 「現代日本語のモダリティの体系と構造」 仁田義雄・益岡隆志 (編) 『日本語のモダリティ』 pp. 1-56, くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1991) 『日本語のモダリティと人称』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1997) 『日本語文法研究序説』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1999) 「モダリティをめぐる」 『月刊言語』 28 (6), pp. 34-45, 大修館書店
- 仁田義雄 (編) (1995) 『複文の研究 (下)』 くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法 4 モダリティ』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2007) 『現代日本語文法 3 アスペクト、テンス、肯否』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2008) 『現代日本語文法 6 複文』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2009a) 『現代日本語文法 2 格と構文、ヴォイス』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2009b) 『現代日本語文法 5 とりたて、主題』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2009c) 『現代日本語文法 7 談話、待遇表現』 くろしお出版
- 沼田善子・野田尚史 (編) (2003) 『日本語のとりたて——現代語と歴史的変化・地理的変異』 くろしお出版
- 野田春美 (1995) 「ノとコト」 宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法 (下) 複文・連文編』 pp. 419-428
- \_\_\_\_\_ (1997) 『「の(だ)」の機能』 くろしお出版
- 野田尚史 (1991) 『はじめての人の日本語文法』 くろしお出版
- 芳賀綏 (1954) 「“陳述”とは何もの?」 『国語国文』 23 (4), pp. 241-255
- 蓮沼昭子 (1995) 「対話における確認行為「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」 仁田編 (1995) pp. 389-419
- 原沢伊都夫 (2005) 「テアルの意味分析——意図性の観点から」 『日本語文法』 5 (1), pp. 20-38, 日本語文法学会
- 早津恵美子 (1989) 「有対他動詞と無対他動詞の違いについて」 『言語研究』 95, pp. 231-56 (須賀・早津編 1995 に再録)
- ピーターセン, マーク (1988) 『日本人の英語』 岩波新書
- 福田一雄 (2013) 『対人関係の言語学——ポライトネスからの眺め』 開拓社
- 文化審議会答申 (2007) 『敬語の指針』
- 堀江薫, パルデシ, プラシヤント (2009) 『言語のタイポロジー——認知類型論のアプローチ』 (「認知言語学のフロンティア」 5 巻), 研究社
- ボズナー, マイケル, I (編) 佐伯胖・土屋俊 (監訳) (1991) 『言語への認知的接近』 産業図書
- 本多啓 (2005) 『アフォーダンスの認知意味論——生態心理学から見た文法現象』 東京大学出版会
- 前田直子 (2006) 『「ように」の意味・用法』 笠間書院
- \_\_\_\_\_ (2009) 『日本語の複文——条件文と原因・理由の記述的研究』 くろしお出版
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (1999) 「命題との境界を求めて」 『月刊言語』 28 (6), pp. 46-57, 大修館書店

- \_\_\_\_\_ (2000) 「価値判断を表す「ものだ」と「ことだ」」『日本語文法の諸相』 pp. 123–134, くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2007) 『日本語モダリティ探求』 くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法・改訂版』 くろしお出版
- 益岡隆志・野田尚史・沼田善子 (編) (1995) 『日本語の主題と取り立て』 くろしお出版
- 松岡弘 (1987) 「「のだ」の文・「わけだ」の文に関する一考察」一橋大学言語学研究室『言語文化』 24, pp. 3–20
- 三尾砂 (1942) 『話言葉の文法』 (復刻版 1995, くろしお出版)
- 三上章 (1953, 59) 『現代語法序説——シンタクスの試み』 刀江書院
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』 大修館書店
- \_\_\_\_\_ (1993) 『現代日本語文法の輪郭』 大修館書店
- 三原健一 (1994) 「いわゆる主要部内在型関係節について」『日本語学』 15 (7), pp. 80–92, 明治書院
- 三宅友宏 (2006) 「「実証的判断」が表される諸形式——ヨウダ・ラシイをめぐって」益岡・野田・森山編 (2006) 『日本語文法の新地平 2 文論編』 pp. 119–136, くろしお出版
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『新日本語文法選書 4 モダリティ』 くろしお出版
- 茂木敏伸 (2002) 「「ばかり」文の解釈をめぐって」『日本語文法』 2 (1), pp. 171–189, 日本語文法学会
- 森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』 ひつじ書房
- 守屋三千代 (2006) 「〈共同注意〉と終助詞使用」『月刊言語』 35 (5), pp. 62–67, 大修館書店
- 森山卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院
- \_\_\_\_\_ (1989) 「コミュニケーションにおける聞き手情報——聞き手情報配慮非配慮の理論」仁田義雄・益岡隆志 (編) 『日本語のモダリティ』 pp. 95–120, くろしお出版
- \_\_\_\_\_ (2000) 『ここから始まる日本語文法』 ひつじ書房
- 山口佳也 (1975) 「「のだ」の文について」『国文学研究』 56, pp. 223–235
- 山田孝雄 (1936) 『日本文法学概論』 宝文館
- 山梨正明・有馬道子 (編著) (2003) 『現代言語学の潮流』 勁草書房
- 渡辺実 (1953) 「叙述と陳述——述語文節の構造」『国語学』 165, pp. 26–37
- 綿卷徹 (1997) 「自閉症児における共感獲得表現助詞「ね」の使用の欠如: 事例研究」『発達障害研究』 Vol. 19, No. 2, pp. 146–157, 日本発達障害学会
- Blakemore, D. (1987) *Semantic Constraints on Relevance*, Blackwell Publisher
- \_\_\_\_\_ (1988) “‘So’ as a Constraint on relevance” in Kempson, R. (ed) *Mental Representations: The Interface between Language and Reality*, pp. 183–196, Cambridge University Press
- \_\_\_\_\_ (1992) *Understanding Utterances*, Blackwell Publisher (武内道子・山崎英一 (訳) 『ひとは発話をどう理解するか——関連性理論入門』 1994, ひつじ書房)

- Brown, P. and Gilman, A. (1960) "The Pronoun of Power and Solidarity" in P. P. Giglioli, ed. *Language and Social Context*, pp. 252–282, Penguin Books.
- Brown, P. and S. Levinson (1978, 1987) *Politeness some universals in language usage*, Cambridge University Press. (田中典子(監訳)『ポライトネス——言語使用における、ある普遍現象』2011, 研究社)
- Brown, G. and Yule, G. (1983) *Discourse Analysis*, Cambridge University Press.
- Burzio, Luigi, 1986 *Italian Syntax*, Springer.
- Comrie, B. (1981) *Language Universals and Linguistic Typology: Syntax and Morphology*, Oxford: Blackwell and Chicago: University of Chicago Press. (松本克己・山本秀樹(訳)『言語普遍性と言語類型論——統語論と形態論』2001, ひつじ書房)
- \_\_\_\_\_ (1989) *Language Universals and Linguistic Typology* (2nd edition), Blackwell.
- de Beaugrande, R. de, & Dressler, W. (1981) *Introduction to Text Linguistics*, Longman.
- Gibson, J.J. (1986) *The Ecological Approach to Visual Perception*, Psychology Press.
- Goffman, E. (1967) *Interactional Ritual: Essays on Face-to-Face Behavior*, Doubleday Anchor, (抜粋, Jaworski & Coupland, eds. (1999) *The Discourse Reader*, pp. 306–320, Routledge.) (浅野敏夫(訳)『儀礼としての相互行為——対面行動の社会学』(新訳版)2012, 法政大学出版会)
- Greenberg, J. (1966) "Some Universals of Language with Particular Reference to the Order of Meaningful Elements" in Greenberg, ed. 1966 *Universals of Language*, pp. 73–113, MIT Press.
- Grice, H. Paul (1967) "Logic and Conversation" in Grice P. (1989) pp. 22–40.
- \_\_\_\_\_ (1975) "Logic and Conversation" in Peter Cole and Jerry Morgan eds., *Syntax and Semantics 3: Speech Acts*, Academic Press, New York, pp. 41–58. (Grice1989に再録)
- \_\_\_\_\_ (1989) *Studies in the Way of Words*, Harvard University Press (清塚邦彦(訳)『論理と会話』1998, 勁草書房)
- Grosz, B. J. & Sidner, C. L. (1986) "Attention, intentions, and the structure of discourse", *Computational Linguistics*, 12 (3), pp. 175–204.
- Halliday, M.A.K. & Hasan, R. (1976) *Cohesion in English*, Longman. (安藤貞雄・永田龍夫他(訳)『テキストはどのように構成されるか——言語の結束性』1997, ひつじ書房)
- Hobbs, J. R. (1985) "On the Coherence and Structure of Discourse", *CSLI Report*, No. CSLI-85–37.
- Hopper, P. J. & Traugott, E. C. (1993) *Grammaticalization*, Cambridge University Press (日野資成(訳)『文法化』2003, 九州大学出版会)
- Horie, Kaoru (1998) "On the Polyfunctionality of the Japanese Particles *NO*: From the Perspectives of Ontology and Grammaticalization" in Ohori, T. (ed.) *Studies in Japanese Grammaticalization*. pp. 169–192, Kurosio Publishers.
- Ide, Sachiko (1990) "How and Why Do Women Speak More Politely in Japanese?" in

- Sachiko Ide, and Naomi Hanaoka McGloin (eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*, pp. 63–79, Kurosio Publishers.
- Ikegami, Yoshihiko (1991) “Do-language and Become-language: two contrasting types of linguistic representation” in *the Empire of Signs: Semiotic Essays on Japanese Cultures*. Ikegami, Y. (ed.) pp. 285–326, John Benjamins.
- \_\_\_\_\_ (2015) “‘Subjective Construal’ and ‘Objective Construal’: A Typology of How the Speaker of Language Behaves Differently in Linguistically Encoding a Situation” 『認知言語学研究』 Vol. 1, pp. 1–21.
- Joseph, Lewis S. (1976) “Complementation”, in Shibatani, M. (ed.) *Syntax and Semantics* 5, pp. 307–370, Academic Press
- König, E. (1991) *The Meaning of Focus Particles*, Routledge.
- Kuroda, Shige-yuki (1992) “Pivot-independent relativization in Japanese I, II, III”, *Papers in Japanese Linguistics* 3, 4, 5 (1974, 75, 76), reprinted in *Japanese Syntax and Semantics collected papers* (1992), Kluwer Academic Publishers.
- Lakoff, Robin (1973) “The Logic of politeness; or Minding your p’s and q’s”, *Chicago Linguistic Society*, 9, pp. 292–305.
- Langacker, Ronald.W. (1990) “Subjectification”, *Cognitive Linguistics* 1, pp. 5–38.
- \_\_\_\_\_ (1991) *Foundations of cognitive grammar*, Vol. II, pp. 269–281, Stanford University Press.
- Leech, J. N. (1983) *Principles of Pragmatics*, Longman. (池上嘉彦・河上誓作 (訳) 『語用論』 1987, 紀伊国屋書店)
- Lehmann, W.P. (1973), “A Structural Principles of Language and Its Implications”, *Language* 49, pp. 47–66.
- Li, C. & Thompson, S. A. (1976) “Subject and topic: A new typology of languages” in Li.C. (ed), *Subject and topic*, pp. 457–489, New York Academic Press.
- Lyons, John 1977 *Semantics* 2, Cambridge University Press.
- Mann, W. C., & Thompson, S. A. (1986) “Relational Propositions in Discourse”, *Discourse Processes*, 9 (1), pp. 57–90.
- Martinet, A (1965) *La Linguistique synchronique, études et recherches*, Presses Universitaires de France.
- McCawler, Noriko A. (1978) “Another look at no, koto, and to: epistemology and complementizer choice in Japanese” in Hinds, J. and Howard. I. (eds.) (1978) *Problems in Japanese Syntax and Semantics*, Kaitakusha.
- McGloin, Naomi (1990) “Sex Difference and Sentence-Final particles” in Sachiko Ide and Naomi Hanaoka McGloin (eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*, pp. 23–41, Kurosio Publishers.
- Miyagawa, Shigeru (1989) *Structure and Case Marking in Japanese* (Syntax and Semantics 22), Academic Press.
- Obana, Yasuko (2000) *Understanding Japanese: A handbook for learners and teachers*,



- Kurosio Publishers.
- Ohuri, Toshio (1995) "Remarks on suspended clauses: A contribution to Japanese Phraseology" in Shibatani, M and Thompson, S.A. (eds.) (1995) *Essays in Semantics*, pp. 201–219, John Benjamin Publishing Co.
- Perlmutter, David. (1978) "Impersonal Passives and the Unaccusative Hypothesis," *BLS* 4, pp. 157–89, Berkley Linguistic Society
- Pinker, Steven (1989) *Learnability and Cognition*, MIT Press.
- Reynolds, Katsue Akiba (1990) "Female Speakers of Japanese in Transition," in Sachiko Ide, and Naomi Hanaoka McGloin (eds.) *Aspects of Japanese Women's Language*, pp. 129–146, Kurosio Publishers.
- Schiffirin, D. (1987, 95) *Discourse Markers*, Cambridge University Press.
- Sperber D. & Wilson, D. (1986) *Relevance: Communication and Cognition*, Oxford University Press. (内田聖二・宋南先他 (訳) 『関連性理論——伝達と認知』 2006/2008, 研究社)
- Stubbs, M. (1983) *Discourse Analysis*, Blackwell Publisher. (南出康世・内田聖二 (訳) 『談話分析——自然言語の社会言語学的分析』 1990, 研究社)
- Sweetser, Eve (1990) *From etymology to pragmatics*, Cambridge University Press. (澤田治美 (訳) 『認知意味論の展開——語源学から語用論まで』 2000, pp. 69–105, 研究社)
- Thomas, J. (1995) *Meaning in Interaction: An introduction to Pragmatics*, Longman. (浅羽亮一 (監修)、田中典子他 (訳) 『語用論入門』 1998, 研究社)
- Tsunoda, Tasaku (1999) "Transitivity and intransitivity", *Journal of Asian and African Studies* 57, pp. 1–9.
- Ueno, Tazuko (1971) *A study of Japaneae modality: A performative analysis of sentence particles*, Ph.D. thesis, University of Michigan.
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics and Philosophy*, Cornell University Press.
- Watts, R. (2003) *Politeness*, Cambridge University Press.
- Watts, R., Ide, S. & Ehlich, K. (eds.) (1990, 2005) *Politenes in Language*, Second Edition.
- Whorf, B.L. (1939, 1956) *Language, thought, and reality*, MIT Press. (池上嘉彦 (抄訳) 『言語・思考・現実』 1993, 講談社学術文庫)